自己評価表（教職員用）　　所属　山梨英和カートメルこども園　名前（　　）　記録日（　　月　　日）

分類	内容	評価	備考
保育の計画性	教職員が建学の精神、教育理念・方針を十分理解している。	(A)・B・C	
	指導計画は幼児の生活が豊かになることを目標とし、幼児の実態に合わせ、かつ状況の変化に対応できるものにしている。	(A)・B・C	
	指導計画に基づいて幼児が主体的にかかわり、安心して遊べる環境構成を、活動の展開に応じて行っている。	A・(B)・C	
	自分の保育と計画の評価・反省を次の保育にいかせるようにし、また、教職員間で検討したことを幼児の生活と自らの保育につなげている。	(A)・B・C	
保育のありかた幼児への対応	幼児の言葉にならないサインを受け止め、幼児同士のかかわりの中になる心の動きに寄り添い、内面の理解に努めている。	(A)・B・C	
	一人ひとりの姿を受け入れ、幼児の気持ちに共感しながら集団と個の関係を常に考慮し、発達段階やこの特性に応じた見通しもあるかかわりに努めている。	(A)・B・C	
	他のクラスや異年齢の幼児とかかわれるよう、様々な保育形態を取り入れ、指導上配慮を必要とする園児については特に情報の交換を密接にし、共通理解を持って対応している。	A・(B)・C	
教師としての資質や能力・適性	保育者に対し、幼児のことや自分の保育のことを分かりやすく伝えたり、職務上知りえたプライバシーに関する情報などの秘密を守るなど、保護者との信頼関係を作ることに努めている。	A・(B)・C	
	幼児と一緒に作りだすことを楽しむ中で、幼児の成長が理解でき、それを喜ぶことができる。	(A)・B・C	
	幼児や教育に関する情報をたえず捕えようとする姿勢をもっている。また社会の出来事にも関心を払い、それを保育に活かしたり、自然に対しても感性を磨こうと努めている。	(A)・B・C	
保護者への対応	こどもの様子、自らの保育観、保育のポイントなどを通信によって知らせたり、連絡帳などを活用して伝え合っている。	(A)・B・C	
	保育参観や懇談会を開いて、子どもや保育また家庭の在り方などについて、自分の観点を伝え、保護者の話にも心を開き、共通理解を得るよう努めている。	(A)・B・C	
地域の自然や社会とのかかわり	幼児の育ちの連続性を踏まえ、地域の子育て支援センターとしての役割を果たすとともに卒園した子どもたちの心のよりどころとしてふさわしく位置づけようと努めている。	A・(B)・C	
	地域の自然とのかかわりを通して、幼児の生活が豊かになりますように工夫している。	(A)・B・C	
研修と研究	子どもたちの内面をその背景などに視点を置いて理解し、常に共感的かかわりに基づいて保育を進めているか、教職員間で検討し学んでいる。	A・(B)・C	
	子どもたちの育ちの連続性に配慮し、家庭や小学校などとの望ましい連携の在り方を研究し、模索している。	A・(B)・C	

【評価欄の記入】　A：十分に達成されている。　B：ほとんど達成されているが、部分的に課題がある。　C：課題が多くあり、成果が上がっていない。

総　評

新型コロナウイルス感染症が5類となり、保育や行事などがコロナ前の状態に戻ってきたが、その期間、異年齢との縦割り保育やコーナー保育など園が大切にしている保育が出来なかった。新しい職員を迎え、新しい課題に取り組みながら、質の高い保育をしていきたいと思う。